

A-Iが学習法指南

金津高、金津、あわら中 試験事業へ

金津高と、連携校の金津、あわらの両中学校で、人工知能(AI)を活用した試験事業が本年度スタートする。連携コースの生徒が週1回程度、学習アプリを使い、個々の理解度やつまづき、集中具合などに応じてAIが「カスタマイズ」したカリキュラムに取り組み。一人一人に合った学習法で学力を高める狙い。

(栗原愛)

学習アプリは、全国の大手予備校や塾などが導入している「atama plus(アタマプラス)」(東京)のシステムを採用。金津高1、3年生は数学と英語、理科の3教科、両中学の中高連携コースの3年生計33人は数学で効

果を検証する。

3校は平日の放課後に1こま90分の授業を設け、生徒は都合の良い曜日に受講する。タブレット端末の学習アプリ

にログインし、それぞれ問題を解く。アプリには中1、高3の学習内容が組み込まれ、学年を超えた振り返り学習や予習などもできるという。

県教委が、文科省の「新時代の学びにおける先端技術導入実証研究事業」に申請中で、採択されれば2学期にも始めたい考え。県の本年度6月補正予算にシステム利用料などとして約1070万円を盛り込んだ。県教委の担当者は「一斉授業では難しい部分を補う形。効果を検証していきたい」と話している。